

引用文献・参考文献をきちんと書こう

～引用文献って何？ どうやって書けばいいの？～

レポート、論文の
仕上げに！



Lesson1 参考文献って何？ 必要なの？ — 引用・参考文献の役割

引用文献・参考文献とは、論文やレポートを執筆するにあたって、自説の論拠となった考え方や研究成果を記した文献のことです。論文やレポート中で内容について言及したものを特に引用文献、言及しないものの、自著の参考になるものや関連のあるものを特に参考文献と使い分ける場合もありますが、ここでは「引用・参考文献」とひと括りに扱います。

なぜ引用・参考文献が必要かという、研究活動は全て先人の研究の上に成り立っているからです。自説を主張する上で引用・参考文献を明示して、どこまでが先人の業績で、どこからが自分の業績かを明らかにすることで、自分の成果と同時に先人への敬意をも表すことになります。

なお、引用・参考文献を明示せず、他人の意見や業績をあたかも自分の意見や業績であるかのように（そうした明確な意図がなくても、どこまでが他人の意見で、どこからが自分の意見かを判別できないように）書くのは「盗用」「剽窃」という、研究活動において最も忌み嫌われる行為です。

引用・参考文献の役割については、科学技術振興機構が以下のように簡潔にまとめています¹⁾。

- 自身の論文の新規性、独創性、信頼性の明確化
- 先行する著者（先人・先輩）に対する敬意
- 出典の明示
- 読者に対する情報提供

このうち「出典の明示」「読者に対する情報提供」は、論文やレポートを読んだ人が、そこに示された引用・参考文献へ論文・レポートの著者と同様にアクセスできることを保証するものです。そのため、引用・参考文献を記述する際には、文献についての情報（書誌情報）を十分に記述することが求められます。

ところで、世の中には様々な研究分野があり、それぞれの分野で、また同じ分野でも学会や雑誌などの単位で、論文やレポートの書き方や、引用・参考文献の書き方について、異なった記述方法が存在している状態です²⁾。

次項では、よく使われている代表的な記述方法をいくつか例示しますが、それ以外にもたくさんの記述方法があります。実際にレポートや、提出する論文を書く際には、提出先の執筆要綱などをよく確認して、適切な記述方法でお書きください。記述方法が異なっていると、内容以前の問題として論文が却下される場合があります。

Lesson2 大切なのはわかったけど、どうやって書けばいいんだろう……？ — 引用・参考文献の記述方法

ここでは、よく使われる代表的な引用・参考文献の記述方法(スタイル)をいくつか例示します。あくまで「代表的なもの」ですので、投稿規定など特に指示がある場合には、そちらに従ってお書きください。

文中での引用・参考文献の記述方法

本文中で、引用・参考文献を明示する際のスタイルです。大きく分けるとふたつの主なスタイルがあります。

- ★ハーバード方式(引用・参考文献情報の記述方法も含む)
著者の姓と発行年に基づいて記述し、文献リストを著者順に列挙する方法
Harvard Citation Style (The University of Western Australia).
<http://guides.library.uwa.edu.au/harvard>
- ★バンクーバー方式
引用順に番号を振って、文献リストを引用番号順に列挙する方法
Vancouver Citation Style (The University of Western Australia).
<http://guides.library.uwa.edu.au/vancouver>

引用・参考文献の記述方法

文献リストにおいて、引用・参考文献の情報(書誌情報)を書く際の記述方法です。色々な記述方法があるため、投稿規定などを参照の上、適切な記述方法を選んでください。

ここに挙げたものはごく代表的なもので、これらを基にアレンジを加えたものが使われる場合もあります。

★The Chicago Manual of Style (シカゴスタイル): 人文系(歴史学・語学等)で多い。

The Chicago Manual of Style Online

<https://www.chicagomanualofstyle.org/home.html>

★SIST02: 主に日本語を対象にした引用・参考文献の書き方。

科学技術情報流通技術基準 文献を引用したい

http://jipsti.jst.go.jp/sist/menu_purpose/index.html

★NLM スタイル: 医学・生物学分野で多い。

National Library of Medicine – Citing Medicine

<https://www.nlm.nih.gov/pubs/formats/recommendedformats.html>

★ACS スタイル: ACS(アメリカ化学会)で定められた。化学分野で多い。

The ACS Style Guide

<https://pubs.acs.org/isbn/9780841239999>

★IEEE スタイル: IEEE(電気電子学会)で定められた。電気・通信・電子・情報工学分野で多い。

IEEE Article Templates

<https://ieeauthorcenter.ieee.org/create-your-ieee-article/use-authoring-tools-and-ieee-article-templates/ieee-article-templates/>

★APA スタイル: APA(アメリカ心理学会)で定められた。社会科学分野(心理学・社会学)で多い。

APA Reference Style

<http://linguistics.byu.edu/faculty/henrichsen/apa/apa01.html>

★MLA スタイル: MLA(アメリカ現代語学文学協会)で定められた。人文系(文学・言語学・哲学)で多い。

MLA Handbook for Writers of Research Papers: Citation Guide

http://library.msstate.edu/li/course_support/MLA.pdf

附属図書館で提供している
RefWorks を使うと、
それぞれのスタイルで
文献リストを作れるよ！
使ってみてね。



Lesson3 ところで、リストに書いてある引用・参考文献ってどうやって探すの？ — 引用・参考文献の探し方

引用・参考文献は、上記のようなスタイルに準じて記述されていますが、書かれている項目はほぼ共通しています。ある程度の経験があれば、文献を探すのに必要な以下の項目を読み取れます。

※ 論文名・書名
※ 著者名・編集者名
掲載誌名・掲載書名, 掲載巻号, 掲載ページ
発行日付, URL



※印は、ほぼ必ずある項目です。
他の項目は、文献によっては
記述がないこともあります。

これらの項目を使って文献を探します。まずは [Tulips Search](#) を使って、文献を検索してみましょう。記載された書誌情報が間違っていることもあるので、気になった場合は [各種データベース](#) や検索エンジンなどで確認することをお勧めします。

電子ジャーナルの論文では、そこで引用している文献へリンクしていることがありますので、ご活用ください。

文献の探し方や入手などについて、ご不明な点は各図書館のレファレンスデスク・カウンターでお尋ねください。

また、ある文献がどれだけ他の文献に「引用されたか」の目安を調べるには、附属図書館で提供している [Web of Science](#) をご利用ください。

appendix そういえば、この Prism の引用文献は？ — 書き方の一例

この Prism の引用文献です。SIST 02 で記述しています。

1) “参考文献の役割と書き方, 科学技術情報流通技術基準(SIST)の活用”. 科学技術振興協会.

http://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf, (参照 2018-07-30).

2) 藤田節子. 国内人文・社会科学系学会誌の投稿規定の分析 (II). 情報管理. 2007, vol.49, no.11, p. 622-631.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/49/11/49_11_622/_pdf/-char/ja (参照 2018-08-02).

2018/09/27 発行